

会 議 録

会 議 名	令和4年度第1回野田市児童福祉審議会																				
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	[議題] (1) 会長の選任について (2) 野田市エンゼルプラン第5期計画の進捗状況について (3) 野田市ひとり親家庭支援総合対策プラン第4次改訂版の進捗状況について (4) 保育施設の確認にかかる利用定員の変更・設定について																				
日 時	令和4年9月30日(金) (書面による審議を行った日)																				
書面による審議を 行った委員の氏名	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">川鍋 友江</td><td style="width: 50%;">小林 幸男</td></tr> <tr> <td>森田 邦子</td><td>田口 英機</td></tr> <tr> <td>篠塚 功</td><td>桜井 玲奈</td></tr> <tr> <td>小笠原 アンナ</td><td>渡邊 理絵</td></tr> <tr> <td>渡辺 竜太</td><td>岡田 一芳</td></tr> <tr> <td>小倉 幸雄</td><td>荒巻 幸子</td></tr> <tr> <td>古屋 真由美</td><td>山田 典子</td></tr> <tr> <td>古橋 和夫</td><td>香山 啓</td></tr> <tr> <td>小熊 良</td><td>縄田 浩子</td></tr> <tr> <td>菊地 広子</td><td>福井 芳枝</td></tr> </table>	川鍋 友江	小林 幸男	森田 邦子	田口 英機	篠塚 功	桜井 玲奈	小笠原 アンナ	渡邊 理絵	渡辺 竜太	岡田 一芳	小倉 幸雄	荒巻 幸子	古屋 真由美	山田 典子	古橋 和夫	香山 啓	小熊 良	縄田 浩子	菊地 広子	福井 芳枝
川鍋 友江	小林 幸男																				
森田 邦子	田口 英機																				
篠塚 功	桜井 玲奈																				
小笠原 アンナ	渡邊 理絵																				
渡辺 竜太	岡田 一芳																				
小倉 幸雄	荒巻 幸子																				
古屋 真由美	山田 典子																				
古橋 和夫	香山 啓																				
小熊 良	縄田 浩子																				
菊地 広子	福井 芳枝																				

議 事

第1回野田市児童福祉審議会の開催は、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面による審議としました。

【発 送 日】令和4年9月16日（金）

【回 答 締 切 日】令和4年9月30日（金）

【取りまとめの日】令和4年9月30日（金）

議題1 会長の選任について

承認する	承認しない	未回答
20名	0名	0名

上記の結果から、原案のとおり承認とする。

【委員からの意見】

特になし

議題2 野田市エンゼルプラン第5期計画の進捗状況について

報告を受ける。

【委員からの意見】

○渡辺委員

事業番号2、3 保育所等の整備。

就学前人口がここ5年間で150人程度少なくなっている認識です。今後の長期的な人口推計を鑑み、過剰な保育所等の整備にならないよう、既存施設の定員変更や弾力受入れなどで対応をしていただけるよう御配慮願います。

事業番号18、63 保育所における子育て支援活動。

	野田市は近隣市町村と比較し、いわゆる０号児（０－２歳児に保育要件を満たさない家庭）の割合が多いと認識しております。当該家庭から見ると、保育所・保育園は余り意識がなく、３歳になれば幼稚園を選択される方も多いことから、私立幼稚園での児童に対するサポートも御検討いただければと思います。国の方でも一番目に届きにくい、０号児のフォローをどのように進めていくかを検討（マイ保育園制度、産後レスパイトケア等）しているところですので、野田市においても全ての子育て家庭に支援が行き届くように御検討いただければ幸いです。 ⇒就学前人口は減少傾向ですが、保育需要は増加傾向となっております。施設整備、既存施設の弾力受入れ、あっせん等を含む利用調整により、４月の待機児童は２年連続でゼロを達成しておりますが、例年年度末にかけて待機児童と保留者が増加していく傾向があり、また年度当初においても保留者が発生していることから継続的な保育需要が見込まれ、保育ニーズの増加による保育の受皿整備が必要となっております。 市では、年度末まで保留者をゼロとすることを目標としてきましたが、保留者を分析した結果、「単願による申込み」、「転園希望」、「通園可能園があるが希望しない」で保留者全体の８割を占め、その他は「求職活動をしていない」「復職する意思がない」「市外からの希望者」であることから、緊急の必要性は低いことを確認しました。保留者解消は困難であり、また、保育の必要性の高い待機児童についても、年度末までの解消を目標とした場合は、過剰な整備となるこ
--	---

	とから、方針を転換し、今後は必要性の高い待機児童の解消に優先的に取り組むと同時に、年度末にかけて増加していく待機児童を減らすこと、特に年度の前半（9月まで）においては待機児童を発生させないように取り組んでまいります。 また、3歳以上の児童については、保育所や認定こども園だけではなく幼稚園の利用も選択できることから、幼児教育需要に応じた受皿も必要となります。その中でも、発達上の支援を要する児童が増加傾向にあることから、市としても私立幼稚園を含め一丸となってインクルーシブ教育を推進する必要があると考えており、令和4年10月から私立幼稚園にも支援を要する園児を受け入れるために加配した職員の人件費等の補助制度を創設しました。今後も、市の子どもたちの将来を第一に、野田地区私立幼稚園協会と協議を重ねて連携を図ってまいります。 貴委員から情報提供いただきました「マイ保育園制度」につきましては、近隣市（市川市・我孫子市）でも導入されている例がありますが、限られた保育士数で実施されている現状と待機児童対策とのバランス等も考慮しながら今後の導入について検討をする必要があると考えております。 また、市では平成17年4月1日から育児不安や育児ストレスを抱える保護者に対し、御自宅に訪問員が訪問し、家事援助や育児指導を行う「養育支援訪問事業（育児支援家庭訪問事業）」を実施しており、この事業の中で出産後だいたい1年以内の母親が育児ストレス等によって、子育てに対して不安や孤独感等を抱えている家庭を対象としております。
--	---

	なお、産後レスパイトケア事業については、国でも検討段階であるため、今後の国の動向を注視してまいります。 さらに、0～2歳児の保育要件を満たさない家庭も含め、全ての子育て家庭に支援が行き届くよう、既存施設を活用した子育て支援を展開できるよう、検討してまいりたいと思います。 ○渡辺委員 事業番号6、48 公立幼稚園の機能充実。 民業圧迫に御配慮いただいておりますが、引き続き御理解のほどよろしく願いいたします。 ⇒市の行政運営について、飽くまでも「民間でできることは民間で」という基本的な考え方を継続し、民業圧迫にならないよう配慮してまいります。 ○菊地委員 幼稚園の預かり保育について、公立で行っていない理由を民業圧迫としているが公立幼稚園であるべきサービスを民営に責任転嫁する考えは間違っている。市民が望むサービスを行うことが公立の務めである。保育士の残業等の問題もあると思うが必要なサービスを公立に求める。 ⇒市の行政運営については、飽くまでも「民間でできることは民間で」という基本的な考え方があります。 公立幼稚園において預かり保育事業に新たに参入す
--	--

	ることは、民業圧迫にもなりかねなく、実施する考えはありません。 ○渡辺委員 事業番号 79 他 児童発達支援・放課後デイサービスについて。 市内の事業者では満員で受け入れきることができず、市外の事業所を利用する方もいらっしゃいます。年々、支援が必要なお子さまが増える傾向にありますので、市内でのサービスが受給できる体制確保も御検討いただきたく存じます。（流山市ですと、施設整備に補助があると聞いております。） ⇒サービスの利用については、市内外に問わず、個々の障がいの特性に応じた事業所を選んで利用していただいております。 令和 4 年 3 月末現在、市内の児童発達支援事業所は、19 事業所全体で利用率は 52.9%、放課後等デイサービス事業所は、21 事業所全体で利用率は 80.2%となっております。 市内の障がい児通所事業者等と連携を図りながら、ニーズに応じたサービスの提供に努めてまいります。 ○小笠原委員 事業番号 159 障がい児教育の推進について。 特別支援学級に在籍する児童は様々な特性があり、教員、指導員ともに専門的な知識を持ち、それを実践できなければ学級崩壊が起きやすいと推測します。特別な支援が必要で在籍しているはずが、配慮が不足し
--	--

	「小人数制学級」となっている学校もあるのではないのでしょうか。 令和３年度実績に「要望があった学校を訪問した」とありますが、要望がない学校へも専門の方を定期的に派遣し特別支援学級の安定した学級運営ができるよう授業の視察や教員への指導・相談など行える体制を整える必要があると感じます。 ⇒毎年５月～６月に、指導課が市内全ての小中学校を訪問し、就学相談を受けた通常学級及び特別支援学級に在籍する新１年生のフォローアップを行っております。またその際、他学年において気になる児童・生徒についても学校と情報を共有し、観察・助言を行うとともに、その後も継続的に学校訪問を行っております。 特別支援学級担任につきましては、新任担当者研修及び教育課程研修会、教育相談研修会を通して、専門性の向上に努めております。また、要望のあった学校への専門家チーム派遣の他に、千葉県立野田特別支援学校の先生に、専門的な視点から授業の視察や教員への指導・相談を行っていただく「巡回相談」という体制を整えております。 議題３ 野田市ひとり親家庭支援総合対策プラン第４次改訂版の進捗状況について 報告を受ける。 【委員からの意見】 ○渡辺委員
--	---

	「住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金」に対して、意見がございます。特別扶養児童手当受給世帯には自動的に10万円が受給できる制度設計となっておりますが、昨今に家庭環境が変更し、一人親になるなど（家計急変世帯）に対しての周知をもう少ししていただけると、よりひとり親家庭などの支援につながるのではないかと考えております。 他市町村では、各教育・保育施設等にポスターを置き配布するなどして、普及を図っていると聞いておりますので、御検討いただければ幸いです。 ⇒「令和4年度子育て世帯生活支援特別給付金」として、低所得の子育て世帯に対し、児童一人当たり5万円を給付しています。 事業の周知について、児童扶養手当の受給者や窓口に来庁された方等、市が把握できる方については、郵送等により個別に周知していますが、家計急変等により支給の対象となる方については、把握することができませんので、主に市ホームページで周知をしています。なお、ポスター掲示はありませんが、市報に複数回掲載しお知らせするとともに、SNS（ライン、ツイッター、フェイスブック）を活用するなどして周知に努めています。 また、チラシを保育所、幼稚園、学童保育所、子ども館に配架しました。 ○渡辺委員 他市を聞くと、進学塾の費用の補助などがあるが、野田市にはないので検討してほしい。
--	--

	⇒市では、中学生と小学３年生を対象に、基礎学力の向上や学習習慣の定着、学習に対する興味関心を高めることを目的に無料で学習支援を行う「子ども未来教室」を開催するなど市独自の学習支援を実施していますので、現状では、進学塾の費用の補助は考えていません。 ○渡辺委員 （知人が）昨年、ひとり親家庭となったが、民生委員の方の名刺を頂いただけで、ひとり親に関する情報をあまりいただけていない。 ⇒民生委員児童委員、主任児童委員については、地域における相談相手として様々な活動をする中で、ひとり親の方が希望される場合は関係機関につなぐなど見守り等を行っています。 ひとり親に関する情報については、手続に来庁された際、母子・父子自立支援員や婦人相談員が面談し、ひとり親に関する情報を説明させていただくとともに個々の状況を聞き取り必要な案内を行い、状況によっては継続的に相談支援を行うようにしています。 新たにひとり親家庭になった世帯や支援が必要な世帯については、母子・父子自立支援員と主任児童委員が家庭訪問を行い情報提供や相談等の支援をしています。 また、市ホームページや市報などにより、ひとり親家庭に限らず広く子育てに関する情報を発信しています。
--	---

	なお、御指摘いただきましたことがないよう、研修等を強化してまいります。 ○渡辺委員 （知人が）離婚をする際に、児童家庭課に相談に行った際の相談スペースが余りにオープンすぎる。隣の方の情報も筒抜けの状態なので、もう少し個人情報・プライバシーに配慮いただきたい。 ⇒児童家庭課のカウンターで申請の受付や相談等の業務を行っていますが、相談内容により、個別の相談スペースを利用するなどプライバシーに配慮して相談を行うようにしてまいります。 ○菊地委員 コロナにより様々な問題がある中、プランなどともがんばっていると思います。情報等を更に周知するために保健所等が行っているLINE等の情報ツールなどの活用を更に進めていってほしい。 ⇒情報の周知については、市ホームページや市報への掲載、SNS（ライン、ツイッター、フェイスブック）を活用するなど情報の発信に努めています。 特に、市ホームページ内の「にじいろNavi」により、ひとり親家庭に限らず子育てに関する支援情報を提供しており、「にじいろNavi」の最新情報をラインでも発信しています。 議題4 保育施設の確認にかかる利用定員の設定・変
--	---

	更について 報告を受ける。 【委員からの意見】 ○渡辺委員 令和５年４月開園の「（仮称）コビープリスクールつつみの」では、新たに１８名の１号認定が行われる。少子化が急激に進行する中では、保育所や認定こども園だけでなく、幼稚園も含めた幼児教育・保育全体として捉えて計画を進めていただきたい。 ⇒御指摘のとおり、幼児教育・保育全体として捉えて計画を進めていくことが重要と考えております。このため、これまで市長部局が保育所及び認定こども園、教育委員会が幼稚園を所管していたため、連携が不十分であった部分を改め、令和５年度より、市長部局の健康子ども部保育課（名称変更予定）において、全体を捉えて計画を進めてまいります。 ○菊地委員 保育の質の確保も考えながら保育の定員数を考えていってほしい。だいたい対応人数に関しきちんと対応している印象を受けた。 ⇒保育士や幼稚園教諭等の確保策を始め、教育保育の質の向上を図る取組を進めてまいります。 ○福井委員 利用者に沿った定員の見直しは賛同します。
--	--

	⇒ご意見ありがとうございます。引き続き、適正な定員の見直しを進めてまいります。 【その他 自由意見等】 ○菊地委員 のだしこども館の交通の問題、まめバス等をこのこども館前に通してあげてほしいと考えています。すぐには難しいとは思いますが、気軽に車のない家族にも利用できる利便性を上げてほしいです。 ⇒現在、まめバスでこども館へ行くためには、少し離れている「野田貝塚」又は「桜の里2丁目」停留所を利用させていただくことになりますが、令和6年の新運行計画の開始に向けて、ルート変更やダイヤ改正等の見直しを進めているところです。ご意見にありましたように移動に不便を感じている方もいらっしゃることから、こども館前へのまめバスの運行を周辺の道路状況、他のルートとのバランス等を考えながら検討を進めてまいります。 今後もまめバスの運行に御理解と御協力をお願いいたします。 ○山田委員 対面の審議会では、資料を配布した上、審議委員を前にして資料の要点をかいつまんで説明していただきますが、書面議決になると資料が配布されるだけとなっています。これでは見逃してはいけないポイントが分かりにくいです（特に資料2、資料3）。
--	--

	書面議決という方式になっても同じように内容のポイントをまとめたものを別に作成するなり工夫があると審議も質の高いものになると思います。 コロナ禍でも私たちが同じ熱量で取り組んでいることを市民のみなさんに理解していただけるよう努力を惜しまないことこそが私たちの使命なのではないでしょうか。 ⇒資料の内容が分かるような説明を添付させていただくなど、審議のポイントが明確に判断できるような工夫をさせていただきます。 ○渡辺委員 近隣市町村の動向をみると、書面決議からZ o o m開催に切替えが進んでおります。各有識者の方が集まる会ですので、書面だけの一方的なものではなく、会議形式のリアルで双方向の議論ができる形も御検討いただければ幸いです。 ⇒近隣市町村での実施状況も踏まえ実施については改めて検討してまいります。 ○福井委員 コロナ感染のため、中止を余儀なくされた事業が多く見受けられました。課題が多いと思いますが可能な範囲で実施できるよう願います。 ⇒事業の実施については、感染対策を徹底し、可能な範囲で事業を実施してまいります。
--	--

	○縄田委員 少子化、人口減少の課題にはやはり子育て支援が大切だと資料を見て考えさせられました。多くの事業が地域の宝（子ども）の成長を支えていることを更に意識していくことが必要と思います。 ⇒少子高齢化による人口減少社会において、子供たちへの支援は、野田市の未来への投資ですので、子育て支援を重要施策の一つとして取り組んでまいります。 ○縄田委員 児童センターの内覧をさせていただきました。子どもたち、市民から親しまれる施設になるのではないかと期待しています。 ⇒子供たちや保護者から親しまれる施設になるよう、利用者からの御意見や御要望等を聞かせていただき、常に改善に取り組み魅力ある施設運営を目指します。 ○渡辺委員 近隣の各市町村の動向をみると、子ども・子育てに関する計画が市の今後の成長戦略に大きく資するものであると感じております。野田市に子育て家庭を誘致していく上で、当審議会では何か練ることができないか議論させていただければと存じます。 新参者ですので会の運営所作などもわからず御迷惑
--	---

	をおかけすることも多いかとは思いますが、なにとぞ御指導御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。 ⇒子育て支援施策は、将来の野田市発展のため非常に重要な施策の一つです。子育て世帯が住みたくなくなるような魅力ある街になるよう御協力お願いします。
--	---